

第 1 回調査委員会 (H24. 1. 5) における委員からの意見等に対する考え方

区分	質問及び意見	考え方
想定地震	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフの地震について、最大クラスの地震と発生頻度の高い地震の二つのモデルに分けて検討してはどうか。 ● 最大級だけではなく、頻度が高いものも検討したほうがよい。 ● 我々の世代、子供の世代に来そうな津波に香川県沿岸がどうなるかを把握する意味で、レベルの小さい津波を想定してはどうか。 ● まずは最大レベルのものを考えておけばよいのではないか。レベルの小さいものを見ると、これまでの延長になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフの津波の被害想定は、「発生頻度は極めて低いものの、発生すれば、香川県において甚大な被害をもたらす最大クラスの津波 (L 2)」と「発生頻度が高く、津波高は低いものの、発生すれば、香川県において大きな被害をもたらす津波 (L 1)」について、実施したい。
想定地震	<ul style="list-style-type: none"> ● 直下型地震について、文部科学省地震調査研究推進本部で評価が進んでいるので、参考にしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 御指摘のとおり、文部科学省地震調査研究推進本部において、直下型地震のモデルが公表されているので、参考にしたい。
想定地震	<ul style="list-style-type: none"> ● M7 程度の直下型地震はどこでも起きうるということを考慮してもらいたい。 ● 我々が知らない未知の活断層についても議論していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● M7 程度の直下型地震については、県内のどこでも起こりうるということを、香川県地震・津波被害想定調査 (以下、「本調査」という。) において、防災・減災対策の課題を整理する中で記載できないか検討したい。
想定地震	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフの連動地震では、時間差発生の評価も課題となっている。破壊伝播過程も反映できると良い。 ● 必ずしも一発目が最悪になるとは限らず、時間差の評価も必要と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間差発生時の取扱いについては、内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会 (以下、「モデル検討会」という。) において、検討が終了次第、公表することになっており、その結果を参考にしたい。
地盤モデル	<ul style="list-style-type: none"> ● 浅部地盤モデルは、地形・地盤分類 250 メッシュが公開されているので、活用してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 浅部地盤モデルについては、モデル検討会が採用している手法 (A V S 3 0) を用いることとしたい。

第1回調査委員会(H24.1.5)における委員からの意見等に対する考え方

区分	質問及び意見	考え方
地盤モデル	<ul style="list-style-type: none"> ● 丸亀・坂出の沿岸部の震度が内陸の平野部と比べて弱いのは距離減衰の影響か。次回は表層地盤や岩盤までの深さなどを詳細に検討してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の地震動予測は、地盤応答解析という手法で実施したので、距離減衰よりも地盤の性状による影響が大きかったと考えている。この手法では、地盤の軟弱な場所の震度が小さく推定されることがある。 ● 地震動予測手法は、年々改良が進み、今回は、モデル検討会が採用している手法(AVS30)を用いて実施することとしており、より正確な予測ができると考えている。
地震動予測	<ul style="list-style-type: none"> ● 巨大地震が起こると地震動の継続時間が長くなり液状化しやすくなるので、十分に評価してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 液状化危険度予測については、これまでの被害想定(500mメッシュ)より、さらに細かい125mメッシュで実施するとともに、予測手法についても、今後公表される内閣府の被害想定に用いられる手法を参考にしたい。
地震動予測	<ul style="list-style-type: none"> ● 500mメッシュで粗いので、さらにきめ細かく最新の知見も入れて評価する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震動等の被害想定は、125mメッシュで実施することとしており、これにより、本県の現在の被害想定(500mメッシュ)、今回の国の被害想定(250mメッシュ)と比較して、よりきめ細かい想定結果が出ると考えている。
地震動予測	<ul style="list-style-type: none"> ● 地盤モデルは文部科学省地震調査研究推進本部の深部構造モデルがあるので参考にして欲しい。長周期地震を考えると3次元的地形モデルが必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 深部モデルについては、御指摘のモデルを活用したい。 ● 長周期地震動については、モデル検討会において検討が終了次第、公表することになっており、その結果を踏まえて対応したい。
被害予測	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物の被害については、倒壊だけでなく、使用性能の評価も必要ではないか。 ● 耐震補強は倒壊しないということのみであり、倒壊だけでなく、使用性能についても評価が必要。病院や避難所(体育館)などは、倒壊しなくとも、天井の落下などで使用できないことも想定され、被害としてみるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用性能についての定量的な被害予測は難しいと思われるので、本調査において、被害シナリオの作成や防災・減災対策の課題を整理する際に、定性的な記載ができないか検討したい。

第1回調査委員会(H24.1.5)における委員からの意見等に対する考え方

区分	質問及び意見	考え方
被害予測	● ライフラインの予測においては、地震動と液状化の両方の影響について考慮してもらいたい。	● ライフラインの被害予測については、今後公表される内閣府の被害想定に用いられる手法を参考に検討したい。
被害予測	● 斜面崩壊による影響を考慮するうえで、人家周辺に限られる急傾斜地等の指定地の情報だけでは不足する。斜面崩壊による道路の不通等を考慮する上で地形を考慮すべきではないか。簡単な方法は、国総研の内田さん提案の手法があるので検討してもらいたい。	● 御指摘の点を踏まえて、検討する方向で進めたい。
被害予測	● 香川県では沿岸部・島嶼部に石油施設などが多いので、これらの被災を考慮できないか。	● 石油施設等の危険物・高圧ガス施設被害予測については、今後公表される内閣府の被害想定に用いられる手法を参考に検討したいが、定量的な被害予測が難しい場合は、本調査において、被害シナリオを作成する中で記載することを検討したい。
防災対策	● 危険度を重ね合わせて指標を作り、複合的な危険度を示したら有効ではないか。 ● 巨大地震による影響は地震動・土砂災害・津波・火災などの複合災害となって表れるので、定量化は無理でも災害をイメージできるような検討が望まれる。	● 複合災害については、本調査において、災害をイメージできるような被害シナリオを作成する中で記載することを検討したい。
防災対策	● 県内では市街地へ車で通勤する人が多いが、車での避難が渋滞を起こし避難を阻害することがあるので、車の調査ができないか。	● 車両の所在を推定するのに適当な資料が見当たらないことから、本調査において、被害シナリオの作成や本県の防災・減災対策の課題を整理する中で検討したい。
防災対策	● 津波の際に漂流物となるものがどこにあるか把握すべきではないか。	● 本調査において、被害シナリオを作成する中で記載することを検討したい。
防災対策	● 危機管理の観点からは災害発生後の減災について検討する必要がある。	● 本調査において、本県の防災・減災対策の課題を明らかにしたい。